

「春の雨を求めよ 闇と光」

ゼカリヤ10：1

■ 実りの雨を待つ

「後の雨の時に、主に雨を求めよ。主はいなびかりを造り、大雨を人々に与え、野の草をすべての人に下さる。」(ゼカリヤ10：1)

「後の雨」とは他の訳では「春の雨」とも訳されています。イスラエルにとってこの雨は収穫の前に降る大切な雨です。しかしその後イスラエルでは乾季がやってきます。その間は食べる物がなく、非常に苦しい生活を送ることになります。その後、夏の干ばつで固くなった土地を柔らかくするために、「先の雨」が降ります。それぞれの土地で、神様が与えて下さる自然の営みがあります。私たちはそれを当たり前のように感じてしまいがちですが、イスラエルの人はそれを感謝し、後の雨をいつも待ち望んでいたのです。全てを造られた神様は、種をまき収穫までには待つという行程のあるものを私たちの糧として与えられました。私たちにわざわざ糧を得るために忍耐をもって待つことを与えられたのは、なぜなのでしょう。種を蒔きそれを育てる雨を待ち、さらに耐えて収穫を得る。待つことは我慢ではなく、その先に必ずそうなることを信じて耐え忍んで待つのでそれは忍耐です。じっと待って実りをもたらす雨を願い耐え忍んだ先には喜びがあります。信じて待つことは神様との交わりなのです。

■ 我慢ではなく忍耐、練られた忍耐は品性を生む

スタンフォード大学である実験が行われました。先生が4歳の子供たちに、1個のマシュマロを置いて言いました。「先生が戻ってくるまで15分間ちゃんと待てたら2個あげるから待ってね」と。大好きなマシュマロを前に、それぞれの行動パターンがありました。マシュマロの前でじっと待つ子、遊んで紛らわし待つ子、泣き出す子、怒り出す子、我慢できずに食べてしまう子。この耐性テストではその後の性格形成について大きな影響が見られました。15年たったのちにその子たちを見てみると、我慢ができなかった子らは社会で問題行動を起こす傾向にあり、我慢のできた子らは社会で中心的な存在で総合判断ができるようになり、リーダーへと成長していったのです。我慢しているときに品性を学べるかどうかははっきりと示されました。生きることは我慢、我慢は忍耐です。練られた忍耐は品性を生み、その品性はやがて栄光の実をつけるのです。「そればかりでなく、艱難ささえ喜んでいきます。それは、患難が忍耐を生み出し、忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと知っているからです。」ローマ5：3-4

■ 闇ははじめにあった 創世記1：1～5

神様は光を昼と名付け、やみを夜と名付けられました。私たちは悪いことが起こったりつらいことがあると、他の誰かと比べ、自分の人生は真っ暗だ…私は暗闇の中にいる…そんな風に闇を表現してしまうことがあります。果たして闇は悪なのでしょうか。神様が作られすべてを良しとされた聖書が語る闇はそのような存在ではありません。これまで生きてきた中で良かったと思ってきたことは、あなたにとって本当に良かったのでしょうか？それを私たちが知るために神様は闇を造られました。進むべき道は闇の中にあります。光で見えるときは周りに気を取られ神様に集中することはできません。目の前が何も見えない暗闇の中にある時こそ静まって神様と1対1になりましょう。そして、心から神様と交わり本当に良いことを知りたいと神様の声に集中するのです。本当の神様の声を聴き分けましょう。闇と思える時こそ、神様と交わる貴い時なのです。

神様は私たちに夜を与えられました。1日のうち3分の1は闇を与えられています。そんな時、神様は私たちが神様と交わることを求めておられます。1日を終えたあと、夜に静まって神様と交わることが大切です。

だからこそ、御言葉の蓄えが必要です。神様の声と自分の声を聞き分けなければならぬからです。

「私は助言を下された主をほめたたえる。まことに、夜になると、私の心が私に教える。私はいつも、私の前に主を置いた。主が私の右におられるので、私はゆるぐことがない。それゆえ、私の心は喜び、私のたましいは楽しんでる。私の身もまた安らかに住まおう。まことに、あなたは、私のたましいをよみに捨ておかず、あなたの聖徒に墓の穴をお見せにはなりません。あなたは私に、いのちの道を知らせてくださいます。あなたの御前には喜びが満ち、あなたの右には、楽しみがとこしえにあります。」(詩編16：7-11)

「義人の道は平です。あなたは義人の道筋をならして平らにされます。主よ。まことにあなたのさばきの道で、私たちはあなたを待ち望み、私たちのたましいは、あなたの御名、あなたの呼び名を慕います。私のたましいは、夜あなたを慕います。まことに、私の内なる霊はあなたを切に求めます。あなたのさばきが地に行われるとき、世界の住民は木を学んだからです。」(イザヤ26：7-9)

■ 闇は恐れるものではない

闇を恐れると道を踏み外してしまいます。

「さあ、向こう岸へ渡ろう」とイエス様が言われ、彼らはガリラヤ湖を渡ろうとしました。その時、大嵐が起き、船は沈没してしまいそうになり、弟子たちはパニックになってしまいました。しかしイエス様は一人眠っておられました。イエス様は向こう岸で神様の働きがあると信じていました。目的を見失わず、大観を見ていれば、私たちは恐れることがないのです。

■ 雨には雲が必要である

後の雨は必ず降ります。天地万物を造られた神様がそのように定めているからです。しかし、雨が降る時には稲妻が起きます。雲で覆われて光は遮られ暗闇が訪れます。雨を望むとき稲妻があつてから、その恵みは降り注がれます。正しいものを選べるように恐れず信頼していきましょう。

■ 闇は学びの時

目の前が真っ暗だと思い悩む時こそ神様に聞きましょう。そんな闇の中でしか聞こえない神様の御言葉を学び、光の訪れを待ち望みましょう。闇は光に打ち勝つことはできません。明けない夜はありません。朝は必ず来ます。

■ 恵は求める者に

希望を見出していきましょう。暗闇を感謝してあきらめないで求めましょう。私たちが求め続けていくことで神様の奇跡はその完全な計画の中で進んでいきます。

■ 暗闇から光に！

闇とは学ぶことです。試練は恵です。種を蒔く痛みを通して私たちに実を得て生きることを与えました。ですから恐れずに忍耐をもって闇を喜びます。神様の想いがなりますようにあきらめずに歩みましょう。闇の中にあつて向こう岸へ渡ることを神様に委ねます。

牧三貴子

(要約者:牧三貴子)

(2020年1月3日)